

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。

雲外蒼天

No. 19

国語の力を付けるには？

あすなろ塾の生徒はどちらかと言えば国語の力が弱いですね。まあこれは、中学生一般に言われることかもしれません。ただあすなろ塾は5教科のうち国語だけがないのも原因かもしれませんね。

それで1年前から「本を読め、本を読め」と言って、ミヨシ電子の協力も得て、今では塾に中学生向きの本を50冊以上揃え、増え続けています。だけどなかなか生徒は本を手にとろうとしません。確かに世の中には本よりおもしろそうなことがたくさんあります。その筆頭がスマホだと思います。大人でさえ活字はスマホでしか見ないという人が多くなってきているのではないのでしょうか。



しかし、中学生にとって国語力の向上は絶対の課題です。なぜなら昨今の入試問題は読解力を重視して、国語に限らず、数学も、理科も社会も長文を読ませて問題を解かせる傾向が強まってきました。それだからこそ、この「雲外蒼天」を月に2回配布して生徒のみなさんに読んでもらっているのですが、それだけでは、なかなか国語の力は付きません。

国語の成績が悪かったという場合、大きく分けて三つの原因が考えられます。

第一は、速読力がないことです。これは、それまでの読書量に既定されている力ですので、本を読まない生徒は、どうしても読むスピードが落ちます。設問を見て問題文を読み返すときに、問題文の該当箇所を探す段階で、すでに時間がかかってしまいます。ぱっと見てさっと見つけるということができないのです。これは短期間で力をつけることができない能力です。

第二は、読解力がないことです。読む力のある生徒は、難しい語彙がいくつか出てきても、その語彙を保留にしたままでも全体の意味を把握することができます。読む力のない生徒は、難しい語彙がいくつか出てくると、それに影響されて文章全体が霞がかかったようになってしまうのです。これもやはりそれまでの読書量に影響されますが、意識して国語の過去問題集や少し難し目の本を読むことでだんだんと読解力が付いてきます。しかし、これも一朝一夕で身に付くものではないので、日々の鍛錬が必要となります。

第三は、解き方のコツがわからないということです。国語の問題の第一の特徴は、正しい答えを見つけるのではなく、間違った答えを消していく問題だということです。第二の特徴は、答えは一般的な常識の中にはなく、その文章の中(特に前後5行の中)に書いてあるということです。ほとんど生徒が、この国語問題の特徴を知りません。設問を見て、常識で考えて合っていそうな答えに○をつけるので、なかなか国語の点が上がらないのです。

このあたりを意識して、国語力(読解力)のアップを図っていきましょう。